

感染症の対応について

本学では、インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス感染症等の感染症（以下、感染症等とする）についての基本的な対応を次のように 取り扱いをしております。

学生には授業やWebサイト・掲示板などで通知しますので、このことを確認するとともに、今一度、日常生活においても、手洗い（除菌）、うがい、咳エチケットの遵守（マスクの着用）、換気といった感染予防策を各人が意識して励行するようにしてください。

<基本事項>

- I. 学生の居住地の埼玉県及び近隣（群馬県、栃木県、茨城県等）で感染症等の罹患者が確認され、拡大が懸念される場合、授業の休講措置やキャンパス内立入り禁止、本学で予定されている全ての行事等諸活動及び課外活動についても禁止をすることもあります。
- II. 感染症等の感染状況は毎日のように変化していますので、本学の対応もそれに応じて変更していきます。この対応等については、学内掲示板に掲示するとともに、本学 Web サイトに掲載しますので、最新の情報を確認してください。
- III. 急激な発熱（37.5℃以上）、鼻汁、咽の痛み、咳、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛など節々の痛み等の症状がある場合には、感染症等罹患の可能性を考えて行動してください。
また、激しい嘔吐や下痢などの症状がある場合には、ノロウイルス等罹患の可能性を考えて行動してください。
- IV. (1) インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症で自宅待機となった学生は、医療機関へ通院・受診した事実が分かるもの（領収書や処方箋のコピーなど）、または大学指定の治癒証明書を添付して病名を記入した「欠席届」(事務室に備え付けてある用紙)を提出してください。
(2) 新型コロナウイルス感染症で自宅待機となった学生は、「新型コロナウイルス(COVID-19) 感染症 自宅療養証明書」及び病名を記入した「欠席届」(事務室に備え付けてある用紙)を提出してください。
なお、授業や実習・試験の代替措置を受ける場合に必要となります。

<対処方法：インフルエンザ>

- 1) 急激な発熱などインフルエンザと思われる症状が出た場合は登校や出勤を控えて、事務局・感染症連絡担当（048-562-0711）へ、その旨を連絡するとともに、医療機関に電話をして、受診時間等を確認し、その指示に従って受診してください。
また、インフルエンザでないことが判明するまでの間、感染拡大防止のため大学への登校あるいは出勤はしないでください。
- 2) 医療機関でインフルエンザと診断された場合の療養期間は発症した日から解熱後 2 日間（医師の指示ある場合はこの限りでない）です。ただし、それを過ぎても風邪の症状が続く場合は、全ての症状が完全に消失するまで、自宅療養を心がけ、外出はしないでください。（医師の指示に従って行動してください。）

解熱後 2 日間が経過した時点で、事務局・感染症連絡担当へ連絡し、「自宅待機」の解除の判断を受け、登校を再開してください。登校したら、欠席届を事務局・感染症連絡担当へ提出してください。その際、通院・受診したことを証明できるもの（領収書や処方箋のコピーなど）を持参し添付してください。添付資料として大学指定の治癒証明書を提出しても差し支えありませんが、医療機関によっては有料となる場合がありますのでご注意願います。（診断書等の提出は必要ありません。）

- ※ 実家を離れての 1 人暮らしの学生は万が一に備えて、1 週間程度の飲料水や食料を確保してください。
- 3) 自宅療養期間中はできるだけ外出を控えなければなりません。医療機関での受診等やむを得ず外出する場合は、必ずマスクの着用や咳エチケットなどの順守に努めてください。
- 4) 症状が消失したと感じた場合でも、自宅療養期間中は登校や出勤はもちろんですが、アルバイトや娯楽などを含めて、完治するまで外出をしないでください。
- 5) 自宅療養期間中の授業や試験の取り扱い措置については、事務局・教務係や担当教員に相談してください。

<対処方法：新型コロナウイルス感染症>

- 1) 急激な発熱など新型コロナウイルスと思われる症状が出た場合は登校や出勤を控えて、事務局・感染症連絡担当（048-562-0711）へ、その旨を連絡するとともに、医療機関に電話をして、診療時間等を確認し、その指示に従って受診してください。
なお、濃厚接触者の考え方は廃止となったが、家族が感染した場合は発症日を 0 日として、5 日間は自身の体調に注意し、7 日目まで感染する可能性がある。特に、手洗い等、換気のほか、不織布マスクの着用や高齢者等ハイリスク者との接触は控えてください。
- 2) 医療機関で新型コロナウイルス感染症と診断された場合の療養期間は発症した日を 0 日として 5 日間の自宅療養し、ただし、5 日目に症状が続いていた場合は、症状が軽快して 24 時間程度が経過するまで、自宅待機を心がけ、外出はしないでください。
（医師の指示に従って行動してください。）
発症日を 0 日として 5 日間の自宅療養した時点で、事務局・感染症連絡担当へ連絡し、「自宅待機」の解除の判断を受け、登校を再開してください。登校したら、欠席届を事務局・感染症連絡担当へ提出してください。その際、自宅療養証明書と病名を記入した欠席届を提出してください。

- ※ 実家を離れての 1 人暮らしの学生は万が一に備えて、1 週間程度の飲料水や食料を確保してください。
- 3) 自宅療養期間中はできるだけ外出を控えなければなりません。医療機関での受診等やむを得ず外出する場合は、必ずマスクの着用や咳エチケットなどの順守に努めてください。
- 4) 症状が消失したと感じた場合でも、自宅療養期間中は登校や出勤はもちろんですが、アルバイトや娯楽などを含めて、完治するまで外出をしないでください。

- 5) 自宅療養期間中の授業や試験の取り扱い措置については、事務局・教務係や担当教員に相談してください。

<対処方法：その他>

- 1) 急激な嘔吐や下痢などの感染性胃腸炎等の感染が疑われる症状が出た場合は登校や出勤を控えて、事務局・感染症連絡担当（048-562-0711）へ、その旨を連絡するとともに、医療機関に電話をして、受診時間等を確認し、その指示に従って受診してください。

また、感染性胃腸炎等の感染でないことが判明するまでの間、感染拡大防止のため、大学への登校あるいは出勤はしないでください。

- 2) 医療機関で感染性胃腸炎等と診断された場合の療養期間は、発症した日から医師の登校許可が出るまでの期間です。

学生は登校許可が出た時点で事務局・感染症連絡担当へ連絡し、「自宅待機」の解除の判断を受け、登校を再開してください。登校したら、欠席届を事務局・感染症連絡担当へ提出してください。その際、医師の診断書、または大学指定の治癒証明書を提出してください。医療機関によっては有料となる場合がありますのでご注意ください。

※ 実家を離れての1人暮らしの学生は万々に備えて、1週間程度の飲料水や食料を確保してください。

- 3) 自宅療養期間中はできるだけ外出を控えなければなりません、医療機関での受診等でやむを得ず外出する場合は、必ず感染拡大を防ぐ措置に努めてください。

- 4) 症状が消失したと感じた場合でも、自宅療養期間中は登校や出勤はもちろん、アルバイトや娯楽などを含めて、完治するまで外出をしないでください。

- 5) 自宅療養期間中の授業や試験の取り扱い措置については、事務局・教務係や担当教員に相談してください。

実習時における感染症対応

- 1) 実習日の朝の健康状態をチェックし、風邪などの症状のある場合は自宅待機とし、その旨を実習先と事務局・実習指導係に連絡した上で、医療機関で診察を受けてください。
受診の際、実習中である旨を医師に伝え、実習復帰の時期についても相談してください。
- 2) 医師の診断を受けて
 - i) 感染症との診断があった場合
感染症に罹患した旨を実習先に伝え、実習を休む許可を得てください。また、実習復帰の時期については、医師と相談した結果も伝えてください。
あわせて、事務局・実習指導係に状況を報告し指示を受けてください。
 - ii) 感染症ではなかった場合
感染症ではなかった旨を実習先に伝えてください。また、実習復帰の時期については、医師と相談した結果も伝えてください。
あわせて、実習指導担当に状況を報告し指示を受けてください。
- 3) 実習中（実習現場で）に感染症の症状が出た場合は、実習先の実習指導担当者に申し出てその指示に従ってください。
早退した場合は、医療機関を受診し、受診結果を実習先と実習指導担当に連絡してください。
感染症の罹患等に関しては、2)の「医師の診断を受けて」に従ってください。
- 4) 実習先において感染症に関する対処方針などが定められている場合は、本人および家族の罹患においてもそれに従う。
- 5) 実習先の施設・園等が臨時休業などとなった場合は、実習先の指示に従った上で実習指導担当に連絡してください。
- 6) 上記以外に、判断に迷うことがある場合は、実習指導担当(048-562-0711)に相談してください。

＜本学窓口＞

【電話番号】 埼玉純真短期大学 048-562-0711

学生本人や家族との連絡は、基本的に感染症連絡担当が担当します。
但し、実習中に限り、実習指導担当が担当します。

令和5年5月8日

埼玉純真短期大学